



名古屋セントラル病院外観

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号

名古屋セントラル病院

TEL:052-452-3165 (代表)

FAX:052-452-3182

E-mail : hospital@jr-central.co.jp

URL : http://nagoya-central-hospital.com

編集 : 名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

新しい心房細動の治療方法 「冷凍カテーテルアブレーション」を開始!

循環器内科では各種頻脈性不整脈に対してカテーテルアブレーションを実施し日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設の認定を受けています。さらに認定不整脈専門医(後藤裕美主任医長)、設備、治療件数などの要件を満たし、9月20日より発作性心房細動に対するクライオアブレーション(以下クライオ)を開始しました。

従来の高周波カテーテル焼灼術(以下高周波焼灼術)はカテーテルで点状焼灼を繰り返して左心房と肺静脈を電氣的に遮断していたのに対し、クライオはバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて亜酸化窒素ガスで円周状に冷凍し電氣的遮断するため、手技時間の短縮(1.5時間から2時間程度)が期待できます。また高周波焼灼術に比べて治療中の血栓形成リスクが低く、結合組織が温存され、痛みが少ないなどの利点も報告されています。



※イメージ

高周波焼灼術も非常に有効かつ安全な治療ですが、クライオでは同等以上の治療成績と安全性が報告されています。現在クライオの適応は発作性心房細動のみで、持続性心房細動の場合は高周波焼灼術が行われます。

今回当院循環器内科では、クライオアブレーションというより安全かつ有効な心房細動治療法が選択肢に加わりました。心房細動に限らず不整脈でお困りの患者様がみえましたら、ご相談だけでも結構ですのでどうか遠慮なくご紹介ください。



クライオアブレーションの様子

地域の医療・介護事業者向け勉強会を開催！

平成29年10月7日（土）に当院と名古屋市医師会中村区在宅医療・介護連携支援センターが主催で、勉強会を開催しました。参加者は中村区、中川区、西区、中区内の医療・介護・福祉従事者36名の方に参加していただきました。地域の多職種を対象に当院が勉強会を開催するのは初めてであり、今回開催のきっかけは「地域の医療、介護事業所との連携をより深めていきたい」という思いからでした。

勉強会のテーマは『認定看護師がお伝えします！ケアに役立つワンポイントアドバイス講座』とし、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の西川看護師からは、ベッド上のポジショニングや移乗について、摂食・嚥下障害看護認定看護師の福本看護師からは嚥下体操について、皮膚・排泄ケア認定看護師の佐藤看護師からはスキンケアについて、それぞれ現場スタッフ向けにケアのポイントについて発表しました。

後半は当院脳神経外科の竹林主任医長より、「あきらめない！脳卒中の後遺症～QOLの向上と介護負担の軽減を目指して～」と題して、痙縮治療について講演を行いました。実際の患者の映像や動画を交えながら、痙縮治療の治療法や効果、対象者について話をし、在宅や介護施設などで生活する内に発生していく痙縮だからこそ、参加者の皆さんに痙縮を見逃さず、治療ができることを患者・利用者に伝えてほしいというお話をさせていただきました。

講演終了後は、参加者の方から認定看護師や医師への個別質問もあり、現場で仕事をする上で役立つ内容を提供できたのではないかと感じています。

今後も地域の皆様向けに勉強会を開催し、当院での取組の紹介などを行い、積極的に連携を図っていききたいと思います。



勉強会の様子



勉強会担当メンバー

平成29年度上期当直医表彰を実施しました

平成29年度上期に救急当直業務において、救急患者の積極的な受入れを行い、大きく貢献した当直医を表彰しました。当院では、質の高い救急医療の提供に向け、いっそう尽力して参ります。

【受賞者】呼吸器内科 小林 玄弥 ・ 整形外科 渡邊 雅之

年末年始の外来休診のお知らせ

12月30日（土）～1月3日（水）は外来診療を休診致します。

新年は1月4日（木）より平常通り診療致します。

なお業務の都合により、各科の診療が変更となる場合もありますので
予めご承知願います。



※イメージ

第86回 病診連携勉強会

大腸癌の化学療法

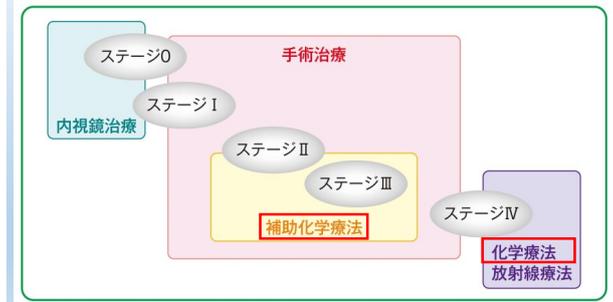
消化器外科 主任医長 大島 由記子



平成29年8月22日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

大腸癌に対して化学療法を行う場面は、根治術後に行われる補助化学療法と切除不能の進行・再発大腸癌に行われる化学療法の2つがあります。大腸癌の化学療法はここ10年で劇的な進歩を遂げてきており、切除不能進行・再発の場合でも、平均的な生存期間が従来の1年程度から、2年半～3年に向上しただけでなく、従来では切除不能であった高度な転移のある場合でも、化学療法によって腫瘍が縮小し、手術による切除が可能となる例も見られるようになりました。

大腸癌のStage別治療方針



大腸癌における化学療法

補助化学療法

- 手術前や手術後に行われる治療。
● 術後補助化学療法は、完全に病巣を切除できた症例に対して、再発を防止予後を改善する目的で行われる。

切除不能進行再発大腸がんに対する化学療法

- 手術でがん病変を取りきれない、あるいは、術後に再発したがん病変が切除できない場合に行われる治療。
● がんが大きくなるのを抑え、自覚症状を軽減させ、生存期間を延長させる目的で行われる。

術後補助化学療法: Stage IIIの大腸癌に対しては、根治的な手術の後に一定期間の化学療法を行うことで再発する可能性をより低く抑えられることがわかっており、当院でも術後状態に問題がなければ補助化学療法をお勧めしています。

当院では主に内服薬のUFTとロイコボリン、カペシタビン、S-1のいずれかを用いて行っています。

切除不能進行・再発大腸癌に対する化学療法: 切除不能進行・再発大腸癌に対する化学療法に関しては、新規の抗がん剤が本邦でも多数用いられるようになり、治療成績は向上してきました。現在は、細胞障害性抗癌剤(オキサリプラチン、イリノテカン、カペシタビン、S-1など)に分子標的抗がん剤(ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムマブなど)を組み合わせる化学療法を行うことがガイドラインで推奨されています。

当院では主に外来通院で、点滴と内服薬(カペシタビンまたはS-1)を組み合わせ行っています。化学療法による治療成績が向上したことで、当初切除困難と判断された転移巣が切除可能となるケースもあります。

化学療法の副作用

Infographic detailing side effects of chemotherapy regimens: Oxaliplatin-based (XELOX, FOLFOX), Irinotecan-based (FOLFIRI, IRIS), and FOLFOLIRI. Side effects include hand/foot numbness, fatigue, weight loss, and hair loss.

化学療法では吐き気、食欲不振、骨髄抑制といった副作用が少なからず出ます。大腸癌で使用される抗癌剤特有の副作用としても手足症候群、末梢神経障害等があり、これらの副作用に対しては適切に対処し、患者様に不安なく化学療法を受けていただけるように努めています。

※イラストは全てイメージです

Event

第88回病診連携勉強会

日 時：平成29年12月19日（火）14：00

会 場：名古屋セントラル病院

2階 多目的ホール

講 師：整形外科

主任医長 高木 英希

テーマ：当院における骨粗鬆症性骨折の治療

日本医師会生涯教育講座

カリキュラムコード：77

是非ご参加ください。

Topics

新任・転任医師のご紹介

10月1日付で医師が1名着任しましたので、ご紹介いたします。



神経内科

主任医長

ごとう あつこ

後藤 敦子

神経内科は脳や脊髄疾患をはじめ幅広い疾患に関わっています。患者さんのお話をよく聞き、わかりやすい説明を心がけます。必要な検査を行い、最善の治療ができるよう取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

第89回病診連携勉強会

平成30年3月3日（土）名古屋マリオットアソシアホテルにて第89回病診連携勉強会と意見交換会を開催します。詳細は後日、別途ご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

第10回クリスマスコンサート

日 時：12月18日（月）13：00～

会 場：名古屋セントラル病院 エントランスホール

出演者：清水雅恵（お話）、横井玲子（歌）、安田麻理（ピアノ）、高橋誠（ヴァイオリン）、ティト・モンテ（アコーディオン）

*当日は、プリザーブドフラワーの展示等も行います。

*どなたでも予約不要・無料で参加いただけます。

*コンサートのためだけに来院された場合、駐車場は有料です。



※イメージ

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる